

看護学科

科目名: 日本語表現技法				担当教員 氏名: 篁 幸子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	総合科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
文章表現の目的は自分の考えを他人に伝達することである。ことばというのは社会的な約束に支えられたものであるからその規範を自分の中に取り入れていけるかが問題となる。自分の手でペンを取って自己表現していくことは愉快なことであり尊いことと知る。						
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			・ことばの機能(思考と伝達)を学び、ことばには魂の解放があることに気づく			
C 論理的思考力			・わかりやすい素直な言語表現を学び、明快な文章を書けるようにする			
H コミュニケーション力			・自分の内面を深く省察できる強さと時代の動きを敏感にとらえる精神の躍動性を育てる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: レポート「50%」はその都度作文小論文の提出のことであり、その他は授業中の態度、出欠状況より判断、テストは国語表現能力を進度にあわせてする						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 2回目の講義のとき作文を書く。4回目のとき国語表現、漢字等の基礎的テスト実施。5回目のとき原稿用紙表記を兼ねてエッセイ提出。8回目のとき時事問題テーマに作文提出。10回目のとき日本語についての総論文提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: その都度採点し、アドバイスし返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①ことばの機能・話しことばと書きことば				60分		
②文章を書くー用語と表記ー文章を書くための心得				60分		
③用語ー使用することばー和語・漢語・外来語				60分		
④表記ー漢字について ひらがなについて・符号について(句読法)				60分		
⑤原稿用紙の基本 種類・表記上の諸注意 訂正の仕方				60分		
⑥文章表現の手順 主題・題材・構想				60分		
⑦さまざまな文章 各文に学ぶ				60分		
⑧報道・新聞の文章				60分		
⑨実用文の書き方 手紙文				60分		
⑩レポート・就職作文・小論文				60分		
⑪範例を読む 1「いま必要な哲学者の言葉」				60分		
⑫範例を読む 2「生と死の歳時記」				60分		
⑬範例を読む 3「宮澤賢治の世界」				60分		
⑭範例を読む 4「宮澤賢治の世界」				60分		
⑮範例を読む 5「文章と修業と修行」				60分		
使用テキスト:				その他参考文献など:「日本語の表現」新聞・雑誌等の記事をタイムリーに紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日本語とは何かの原点を学び、母国語への愛情と愛着を持つことによって書くことの楽しさを知る。 日常生活の中で自己を的確に表現する。 コミュニケーションの手段としての必要性を認識する。						